

2022Japan National Team Report ” サポーター”



報告者氏名	堀野 香澄
大会名	ARKAS OPTIMIST WORLD CHAMPIONSHIP
開催地	Bodrum Turkey
大会期間	2022 6/27-7/7

- 帰国後1ヶ月以内に、チームでまとめた上、JODA 海外派遣担当までメールにて送付して下さい
- JODA 理事会にて確認の後、ホームページに公開します
- 記入時の注意点
 1. このレポートは今後海外派遣レースに参加する選手、役員また日本のジュニアのための資料です
 2. なるべく客観的な立場から、詳細に記入して下さい
 3. 大会本部や運営、他国や他国選手また特定の個人を批判するような記述はしないで下さい
- 写真資料について

このレポートを補足する資料として必要な場合は、文中に貼り付けて下さい

開催地域の様子	気温は35度前後あったが湿度が低く、昼からは風がずっと吹いているため過ごしやすい。 滞在中一度も雨が降らず、一日の日照時間が長い。 絵に描いたような美しい海！ 食事は食べやすいものばかり。
宿泊場所	ハーバーからシャトルバスで約10分 選手・三役の滞在ホテルから徒歩5分以内の一軒家
大会のサポーターへの対応は	大会期間中はバースエリア立ち入り禁止。ハーバー入口横にあるカフェで待機。トラックトラックはまあまあ不調。 観覧船は20€で乗船可能。ただし最低人数に達しない場合は欠航。 計測日、開会式、艇返却時、閉会式は選手と同行可能。 サポーターの宿泊、移動、食事など大会側は全く関与せず全て自己手配。
選手たちのコンディションいつもとどうでしたか？	海外渡航、海外レース経験の有無が慣れの時間に比例していた。 中3同士、男同士、いつもどこでもとても楽しそうだった。
サポーターとして 気をつけたことは？	できるだけ「いつも通り」が再現できるように健康管理、食事サポート。 アプリで届く情報を見逃さず読んでおく。
海外の選手を見て感じたことは？	体格面での差はあまり感じなかった。 カフェと往復のバスの中、ホテルでの様子しかわからないけれど国籍は違ってもみんな同じ様子。
日本の選手を見て感じたことは？	知っている単語を並べて意外と積極的なコミュニケーションを取って楽しそうにしていた。 レース後は必ずホテルのプールへ。他の国の選手たちともそこで交流していた。

Spare day の 過ごし方は？	チームレース 2 日目の午後からは街散策。地元のものを食べたり買ったり。 最終日フライトが夜だったので、船をチャーターして島へ海水浴。
日本チームとして の課題はありました か	語学力 持ち物管理力
JODA への要望	コロナ渦ではありましたがチームビルディングの段階で合宿内容も去年より濃くしていただき、おかげで仲間意識が早くからできたと思います。まだまだコロナは続き、むずかしい時代ではありますがこのような体制を続けて欲しいです。
その他	JODA のみなさま、サポートしていただいた皆様ありがとうございました。 とても貴重な経験を積み、セーリング技術はもちろん心身ともにとても成長させていただきました。 これを糧に次のステップに繋げていきたいと思います。 男子 5 人、最高のチームでした。コーチ・監督 & チームの皆さまにも感謝の気持ちでいっぱいです。

ご協力ありがとうございました

JODA 海外派遣委員会